

平成 20 年度 10 月評価研究会 保育現場の見方 記録

開催日時	平成 20 年 10 月 14 日 (火) 14:00 ~ 17:00
開催場所	(株) 地域計画連合 会議室
参加者	経営系評価者 : 5 名、福祉系評価者 : 6 名
スタッフ	喜多 (記録)
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者自己紹介 2. 保育現場の見方マニュアル (保育現場見学記録) のご説明 3. 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・見学記録様式の形式・内容について ・記録様式以外の説明書の必要性について 4. まとめ・質疑応答 5. アンケート記入
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 保育現場の見方マニュアル 3. アンケート
<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い人～豊富な人、保育の専門家～障害の専門家～行政関係～コンサルタントなど、多様な人が参加したことで、様々な視点での意見交換が行われ、多くの学び・気づきが得られた。 ・保育系評価者間で保育観を共有できたことが良かったとの感想もいただいた。 ・参加者からの問題提起を中心に意見交換を進め、現場を見るときに特に重要な部分についてしっかりと意見交換できた反面、気になるテーマが尽きないこともあり、「時間が足りない」、「もっと話し合いたい」という感じが残った。 ・今回の意見交換を元に「保育現場見学記録」を見直し、改めて配布する (訪問調査資料に加える)。研修内容と学び (概要) <p>< 午前中 (研究会外) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容 : 3 名のみが参加。研究会ではないが、今後、保育園評価に関わって頂く予定のある福祉系評価者 (保育専門ではない方) に、認証保育所を見学に行ってもらった。 ・学 び : 認可と比べて条件的に厳しい認証保育所において、職員がどのように工夫して保育にあたっているかの一例を見ることができた。園庭がなくても地域に出て行って地域資源を有効活用している、1フロアの保育室だが物の配置を工夫して子どもにとって心地よい空間を作っているなど。 <p>< 午後 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容 : 午前中、現場見学に行ってもらった 3 名から、結果報告をしていただき、現場を見る視点の大まかな整理を行った。次に保育現場見学記録様式の説明をした後、ランダムに意見交換を行った。 ・学 び : (主なものを抜粋) <ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関 : 保育園に限らず、玄関は施設の様子がよく分かる。スタッフの出迎えの様子、利用者と職員との関わり、子どもが喜んで中に入っているか、整理整頓されているか、明るい雰囲気があるか、利用者に対する情報提供が行われているか、など。 	

- ・ 送迎時の情報交換：掲示や連絡ノートなどでどのように工夫しているかを見る。このテーマは、アンケートで大きな不満があれば突っ込んでいっても良いが、そうでなければ流しても良い（課題指摘をしても、アドバイスできる解決策がないため）。
- ・ 連絡帳：2, 3歳で連絡帳が無くなることが多いが、職員がそれを当たり前と考えているのは問題。年度末や年始などに、親に対して説明し、2人体制で子どもの情報を親にどう伝えたらいいのかを話し合えると良い。親と園が共に子育てをするための情報共有手段でもあり、リスクマネジメント手段でもある。
- ・ 子どもと職員の関わりの見方：冷たい雰囲気職員はだめ。子どもが何か自分でしようとしているのを待てる職員が良い（先生がやれば早いところを敢えて待つ忍耐力）。子どもと職員が上下関係にあるのか、対等の目線なのか。自分が子どもだったらここに来たいと思えるか。
- ・ 園の方向性をどう考えるか：集団行動を大切にしている園、個人を大切にしている園などがある。善し悪しではなく、園がどう考えてそうしているのかを確認することが大切。保育観は色々あるが、押さえるべき発達上のポイントがある。共通で大事なことと、保育園や先生の個性の部分の線引きが経営系評価者には難しい。だから合議が大事。その時に評価者も「優しい気持ち」を持つことが大事。
- ・ 遊具（おもちゃ・絵本）の備え方の見方：園の考えが出る部分。ここが充実している園は子どもを大切にしていると言える（充実していないから大切にしていないということではない）。まずは園の考え方を聞くことが大事。どういう考え方で、どのような遊具を揃えているのか。園の理念との関係を見る。／子どもが手に取りやすい位置にあるか／おもちゃが少ない場合は、どのように工夫しているか。子どもが一人遊びをするためには、ある程度おもちゃが必要。／キャラクター物の是非は、評価者としては判断しない。コメントに書いておいて、あとは利用者が判断すれば良い。／100均でも良いが、安全面をどう考えているかを確認する（含有物など把握しているか）。
- ・ 食育：どこからが食育か？昔から園で当たり前に取り組んでいることもある。食事の前に献立を説明して、それで「食育に取り組んでいます」と言われても、「それで？」と感ずる。コメントに入れるだけなら、園の考え方を尊重して記述すればよいだろう。A+にする場合には、A+の定義に合うことが必要、特に園の理念がそこにどう実現されているかが大事だろう。
- ・ ガラスの飛散防止について：最低限の安全基準は建築基準法や監査などでチェックされている。安全対策としてやることはたくさんあるので、園が何を考えて何をしているかを知る。何か一つできていないからだめということではないだろう（子どもの怪我につながる可能性が高いものは別。とがった物が出ている、指を挟むなど）。
- ・ サービス関係の評価項目は、見学時に直接職員に話を聞くなどして確認すると円滑。それでもわからなかった部分は着席した時に聞く。
- ・ 評価はたった1日しかその施設を見ることができない。全てを見なくては、と気負う必要はない。評価者が緊張していると、施設側も緊張してしまう。楽しい気持ちを持つことも大切。

以上